

<投資の裏側>

歴史的な超低金利局面のメカニズム

～相場を巡る隠された事実④～

「投資INSIDE-OUT」～相場を巡る隠された事実④～では、歴史的な超低金利局面となっている債券市場の重要なポイントを見ていきます。

◆足元の債券市場を見る上で重要なポイントとは？

世界的に急激な金利低下が起きています。**①米中通商摩擦の激化を背景に世界経済減速が懸念されること、②各国中銀が金融緩和(利下げ)にシフトしたこと、などが背景にある**と言われています。

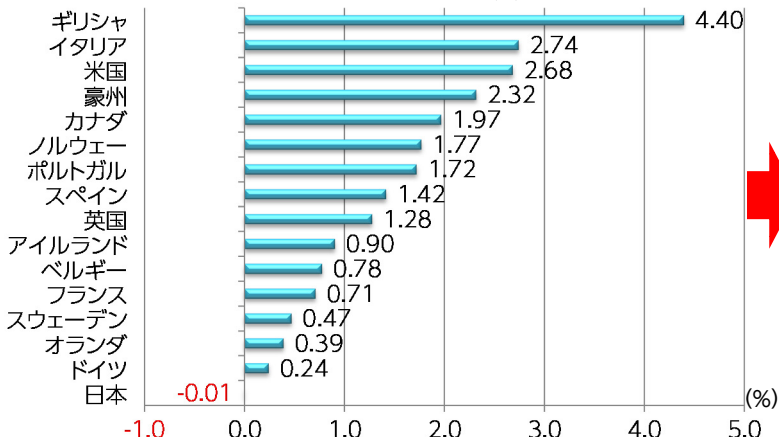
★ 足元の米経済指標は、**内需が底堅く**、ファundamentals(経済の基礎的条件)は**悪くない**。

★ 米債券市場では、**米景気後退懸念**が高く、FRB(米連邦準備理事会)の**積極的な利下げ**が織り込まれている。

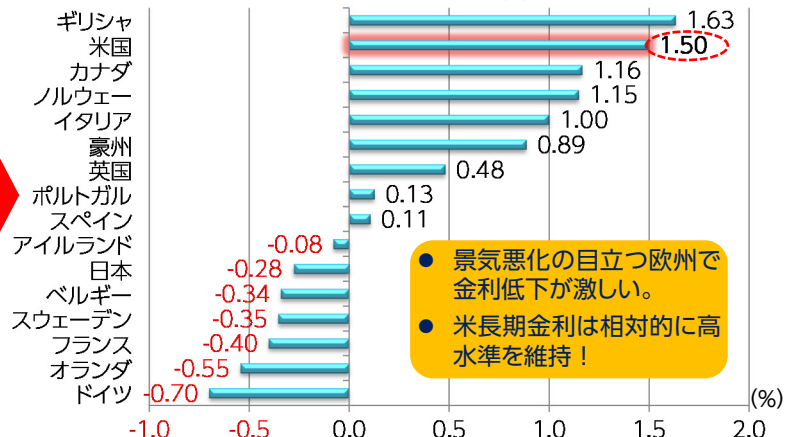
一部の市場参加者は、ファンダメンタルズ対比で**米長期金利が低下し過ぎ**と警鐘を鳴らしています。
果たして、本当に米長期金利は低下し過ぎているのでしょうか。

先進国10年国債利回り

(2019年1月1日時点)



(2019年8月30日時点)



● 景気悪化の目立つ欧州で金利低下が激しい。
● 米長期金利は相対的に高水準を維持!

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

★ 足元の**米長期金利**は、イタリア、スペイン、ポルトガルの長期金利よりも高く、財政不安がつかまとう**ギリシャの長期金利とほぼ同水準**。

★ 一部の**先進国**(日本やドイツなど)においては、**長期金利はマイナス圏**にある。

一般的に、長期金利は国の信用力が高い方が低くなります。**米国の信用力を踏まえると、米長期金利の水準はもう少し低くても良い**との見方も出来ます。米長期金利の急激な低下は、**マイナス金利を避けた海外投資家(日本含む)の旺盛な需要によってもたらされた面もある**と考えられます。

債券市場を見る上で、ファンダメンタルズや金融政策だけでなく、**需給要因も考慮することが大切です。**(青龍)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。